

令和7年度の教育研究

1. 研究テーマ

自身の学びを俯瞰し自己調整する自律した学習者の育成
～「思考力・判断力・表現力等」の育成と評価方法の充実～

2. 研究内容・研究方法

昨年度はまず授業者が見通しと振り返りを往還できるよう、①単元全体を見通した授業設計、②評価規準や評価基準の明確化、③授業・指導改善に向けた授業者自身の振り返りの三点に注力した。本年度は、昨年度の研究を基盤とし学習者が見通しと振り返りの往還を通じて自らの学びを俯瞰し、自己調整できるようにすることに注力する。

(1) 授業者の見通し・振り返りにおける授業改善

○教科ごとの「授業改善のイメージ」・「単元プランシート」を作成し、評価方法を充実させる。

①形成的評価 いつ・どのようにするか計画し、指導改善に活かす。特に配慮を要する学習者への手立てを充実させる。

②総括的評価 学習者の力が高まった「ここぞ」という場面で多面的な方法で評価する。また明確な評価基準を設定する。

(2) 学習者が自ら学びを俯瞰し自己調整できるようにするために、見通し・振り返りを往還するサイクルを充実させる。

①今未来手帳を使い、日常的に見通し・振り返りを行う習慣を定着させる。

②単元のめあて（単元を通して追求する課題）を明示し、単元を通しての見通し・振り返りを充実させる。

③一時間の授業の中での「めあて達成」や「課題解決」のための見通しや、その見通しに対する振り返りを充実させた自己調整モデルFUCHU STYLEを構築する。

3. 研究計画

4月	3 15 23	木 木 水	全体連絡会（研究部年度始提案） 校内研①QUについて 校内研②授業改善についての説明	10月	15	水	校内研⑬公開研の振り返りとまとめ作業
5月	21 28	水 水	校内研③各教科の授業改善の見通し 授業研①【数：末松 哲郎】	11月	12 26	水 水	授業研④【総：白根 和延】 校内研⑭各教科のまとめと交流 今後の研究の方向性について (QUの分析)
6月	18 25	水 水	授業研②【道：屋田 加菜】 授業研③【英：白根 和延】	12月			
7月	2 9	水 水	校内研④各教科の授業改善の進捗状況 校内研⑤指導案審議 G	1月	21 28	水 水	授業研⑥【社：屋田 加菜】 授業研⑦【理：永富 健太郎】
8月	4 21 27	月 木 水	校内研⑥指導案審議 G 9:00～ 校内研⑦指導案審議 全体 8:30～ 校内研⑧指導案審議 G	2月	4 25	水 水	授業研⑧【国：笹山 玲子】 校内研⑭総括・次年度研究
9月	3 10 18 19 24 25 28	水 水 木 金 水 木 金	校内研⑨全国学調および県学調の分析 校内研⑩教科での準備 授業観察会 G(プレ) 授業観察会 G(プレ) 校内研⑪直前提案・確認 公開研前日準備 公開研究発表会	3月			研究紀要完成